



# 十勝岳ジオパーク構想における火山防災

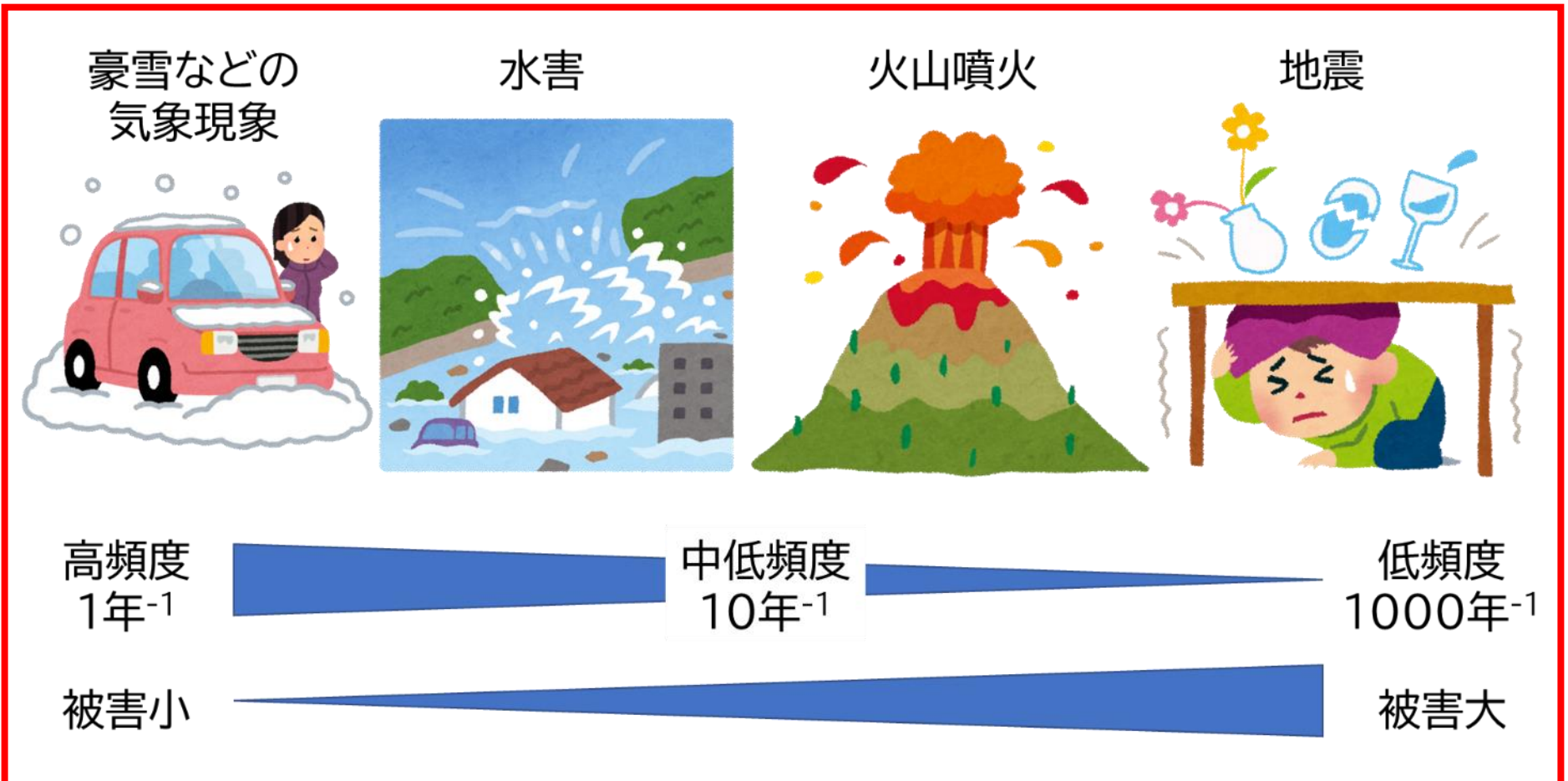
中村有吾（十勝岳ジオパーク推進協議会・専門員）

## 十勝岳ジオパーク構想は美瑛町と上富良野町の全域



十勝岳ジオパーク構想のエリアは、北海道の中央部、美瑛町と上富良野町をあわせた範囲です。ふたつの町にとって十勝岳は特別な山です。災害も、自然の恵みも、十勝岳の火山活動とかかわっています。

## 十勝岳ジオパーク構想で想定される「ジオハザード」



## 十勝岳ジオパーク構想は火山と共生する地域づくり

伝えたいテーマと3つのストーリー

丘と火山がおりなす彩り

- 火山との共生
- 北海道の屋根 十勝岳ものがたり (活火山十勝岳)
- 大地に育まれた火山と共生する美しい丘のまち (火砕流の丘)
- 十勝岳泥流のつめ痕に 北の大地を切り拓く (泥流からの復興)

イメージ

キーワード

防災 温泉 「美しい村」 農業 芸術 ラベンダー ビールとポテチ 「泥流地帯」

- ・いつかおきる火山災害に、地域全体で協力して備える
- ・火山と自然について地域みなで学ぶ
- ・恵まれた環境とふるさとの文化を次世代に確実に受け渡す
- ・地域を愛する人材を育成する
- ・世界の様々な地域と連携しパートナーシップを構築する

美瑛・上富良野はなぜジオパークを目指すのか

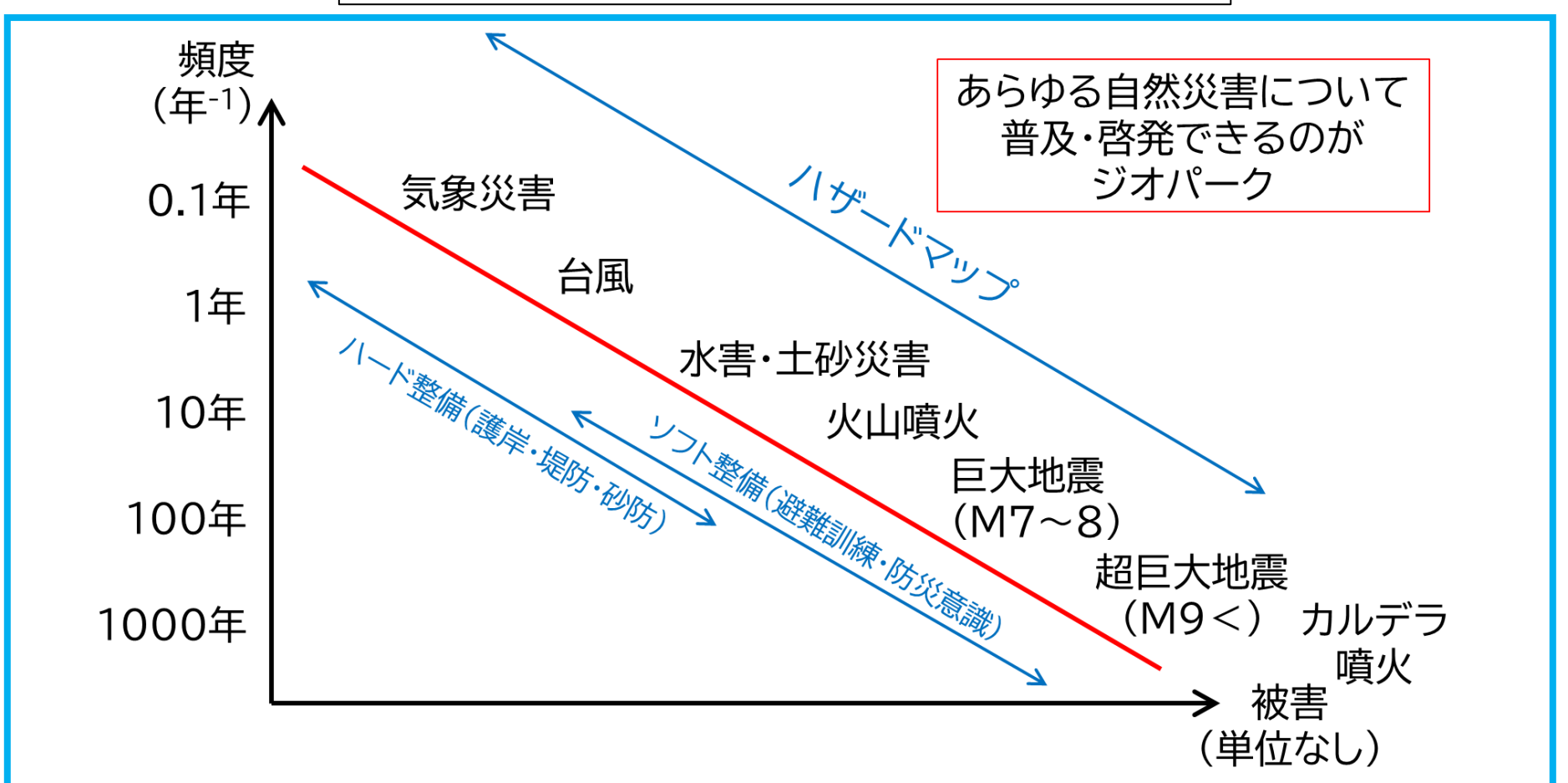
## 災害に備える

## 十勝岳ジオの「防災ツーリズム」



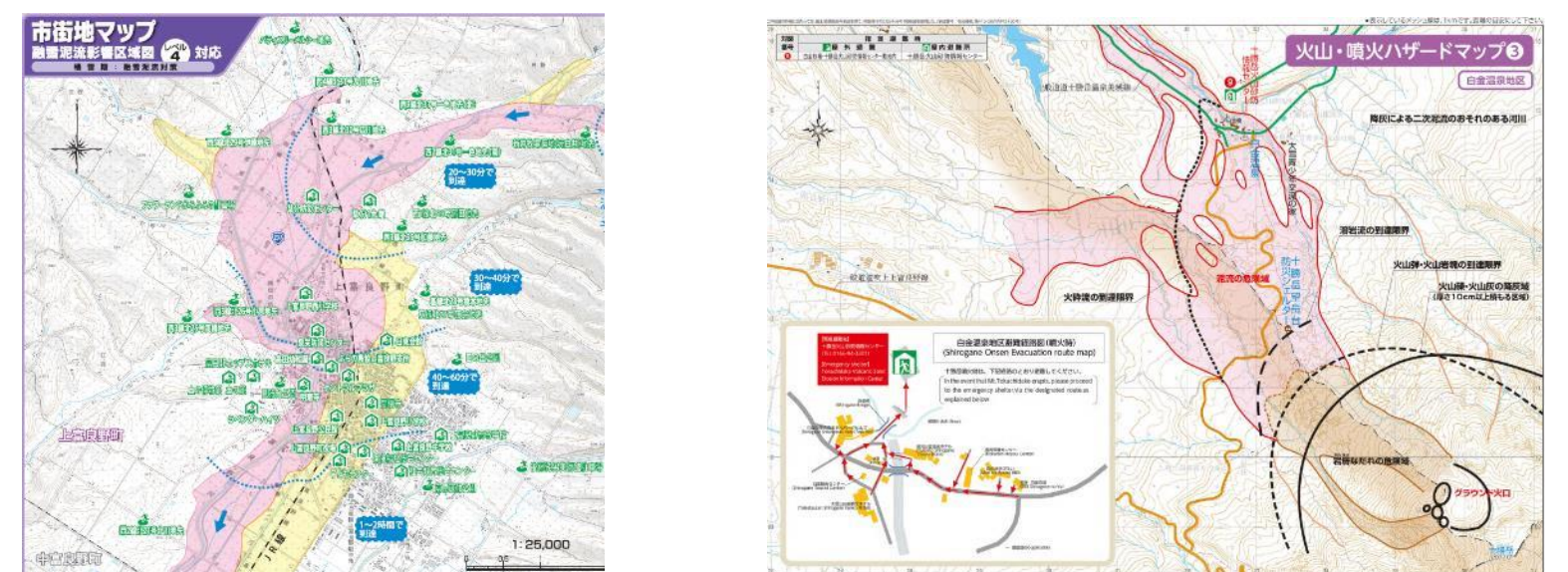
山麓地域に多大な被害をもたらした1926年噴火(大正泥流)の痕跡を訪ねることで、火山災害と復興の歴史を伝えていきます。十勝岳の泥流災害をテーマとした、三浦綾子の小説『泥流地帯』も貴重なジオ資源です。

## どのレベルの災害に備えるのか



## ハザードマップ

1926年の噴火によって泥流災害を経験した十勝岳山麓地域では、1985年の南米コロンビア・ネバドデルルイス火山災害を教訓として、1986年にハザードマップを作成しました。



## 自治体による防災訓練



地元自治体では、冬季の火山噴火を想定した防災訓練を行っています。行政、消防、警察、自衛隊、火山学者、ジオパーク(構想)が連携して、災害に備えています。

## ジオ教育・防災教育

十勝岳ジオ構想では、エリア内のすべての学校で、火山防災教育、ふるさと学習、ジオパークを通じた地域づくり、SDGsの考え方について学び、十勝岳ジオ構想について知る機会が設けられています。地元教育委員会や、国立大雪青少年交流の家などと連携して、社会教育分野でもジオパークを広げています。さらに、火山防災については、国土交通省や北海道建設管理部、北海道教育大学などと連携し、児童・保護者の防災意識の高揚を図っています。

